

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

E メール mail@kenpoukaigi.gr.jp

ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007

FAX03-3261-5453

2025年12月18日(木)

NO. 1640号

本号3頁

自民・維新 9 条改憲に溝 条文案難航か

自民党と維新の会は12日、憲法改正条文案作成にむけた実務者協議を開催し、自民党側が9条改正に関する考え方を説明しました。9条改正を巡る両党の主張に大きな開きがあり、条文化は時間がかかる見通しで、難航する様相です。

両党は連立政権合意文書に「憲法9条改正に関する両党の条文起草協議会を設置。緊急事態条項について、両党の条文起草協議会を設置し、26年度中に条文案の国会提出を目指す。衆参両院の憲法審査会に条文起草委員会を常設する」と明記。11月から実務者協議を始めました。前回会合では維新が党の見解を説明し、この日は、自民党の党組織本部長の新藤義孝氏が「私たちの党内議論がどのように進んできたかを聞いてもらい、議論を深めたい」と述べました。

自民党は2018年に作成した憲法改正の条文イメージで、9条については「戦力不保持」を定めた9条2項を維持し、「9条の2」を新設して自衛隊保持を明記する方針を示しました。現行の9条の条文に手を加えることに対する国民の拒否感に配慮したためです。

一方、維新は9月にまとめた提言「21世紀の国防構想と憲法改正」で、2項は「時代遅れ」として削除を主張。集団的自衛権の全面容認や自衛権、国防軍の明記などを訴えました。

維新はすでに提言に沿った条文化作業に着手しており、「9条改憲案としては急進的な内容」と自負し、自民党とのすり合わせは難航が予想されます。

両党は上記のように連立合意文書を作成し、緊急事態条項創設の26年度中に条文案の国会提出をめざすも明記しましたが、9条改正と並行して議論を進める方向です。

国民閉会!!、今国会での議員定数削減の断念させる!!

衆院議院運営委員会は16日の理事会で、会期末の手続きを行う衆院本会議を17日に開き、臨時国会を延長せず閉会する方針を確認しました。自民党、日本維新の会が提出した衆院議員定数削減法案は継続審議とするとしています。

高市早苗首相（自民総裁）と維新の吉村洋文代表（大阪府知事）は16日午後に東京都内で会談し、定数削減法案は2026年通常国会での成立を目指す方針を確認しました。維新が連立の条件に掲げた定数削減法案は野党に加えて、自民党内にも慎重論が根強く審議入りというスタート地点にも立てず、断念に追い込まれた形です。



理事会に先立ち、自民の鈴木俊一幹事長は記者会見で定数削減法案について「成立に向けたスケジュール感が見いだせない状況なので、会期延長は考えにくくなった」と述べました。

25年度補正予算案は16日午後の参院本会議で、与党や国民民主党、公明党などの賛成多数で可決・成立しました。

選択制夫婦別姓導入に踏み込まず、男女共同参画会議

政府は12日、首相官邸で男女共同参画会議を開きました。男女共同参画の5カ年計画の「基本的な考え方」の案を提示し、旧姓の通称使用に関し法的効力を与える制度を創設すると明記しまし

た。選択的夫婦別姓の導入には踏み込みませんでした。基本的な考え方をふまえ、男女共同参画基本計画を月末に閣議決定をめざすとしています。政府は2026年の通常国会に旧姓使用の法制化に向けた関連法案の提出を予定です。

基本的な考え方の案に「社会生活のあらゆる場面で旧氏使用に法的効力を与える制度の創設の検討を含め、旧氏使用の拡大やその周知に取り組む」と記しました。「戸籍制度と一体となった夫婦同氏制度の歴史を踏まえ、家族の一体感、こどもへの影響も十分に考慮し、検討を進める」と記載した。夫婦別姓の導入に慎重な姿勢を示しました。

高市早苗首相は会議で「女性も男性も活躍できて暮らしやすい地域づくりを実現できるよう、いっそうの取り組みを進めてほしい」と述べました。12日に予定していた首相への答申は見送りました。

国民の多くは、「選択的夫婦別姓」の導入について7月のFNN世論調査で質問したところ、導入に「賛成」66.6%、「反対」25.5%と、夫婦別姓を求めています。連合の芳野友子会長は会議後、旧姓の通称使用の法制化に「反対の立場を表明した」と記者団に語りました。連合は選択的夫婦別姓の導入を求めています。

基本計画は5年ごとの政府の取り組みや目標を示します。今回は30年度末までの各分野での男女共同参画にかかわる具体的な取り組みを盛り込みます。有識者らの専門調査会がまとめる基本的な考え方は計画の土台となります。

旧姓の通称使用を巡り、8月時点の素案で法的効力に関する記述はありませんでした。「引き続き旧姓の通称使用の拡大やその周知に取り組む」との記述にとどめていました。

10月に自民党と日本維新の会の連立政権が発足し、連立政権合意書に旧姓使用の法制化の方針を掲げました。パスポートやマイナンバーカード、運転免許証への旧姓の併記に法的根拠を付与し、日常生活での不便を軽減する狙いがあります。民間企業が提出を求める書類にも、戸籍上の姓と通称に同等の効力を持たせるよう努力義務を課す見通しです。

維新を追い込む、自ら「OTC類似薬」の保険適用除外断念

市販薬と成分や効果が似る「OTC類似薬」の自己負担の見直しを巡り、維新は、医療費を大幅に削減するため、保険適用からの除外を主張していましたが、当面の除外は断念し、厚生労働省の案を受け入れました。対象とする薬の価格に一定の比率を上乗せし、慢性疾患や難病の患者らには配慮策を設けます。

維新の斎藤政調会長は12日、木原官房長官に対し、来年の通常国会に関連法案を提出し、開始当初から「数千億円規模の医療給付の削減」につなげるよう申し入れました。斎藤氏は面会后、「保険適用除外は、今後の検討課題として協議を続けたい」と記者団に述べました。

OTC類似薬には、湿布薬や保湿剤、抗アレルギー薬などがあります。

維新と自民の連立合意文書では、「OTC類似薬」を含む薬剤自己負担の見直し、金融所得の反映などの応能負担の徹底など、25年通常国会で締結したいいわゆる「医療法に関する3党合意書」および「骨太方針に関する3党合意書」に記載されている医療制度改革の具体的な制度設計を25年度中に実現しつつ、社会保障全体の改革を推進することで、現役世代の保険料率の上昇を止め、引き下げていくことを目指すとしています。

音喜多氏「これで維新は苦しいたたかいを強いられる」と

維新の会の元政調会長で元参院議員の音喜多駿氏は「これによって維新はかなり苦しいたたかいを強いられるかなと思っています」と述べました。「内部事情はわかりませんが」と断ったうえで「維新から申し入れをして妥協案を提示しました。最後まで戦わずして、自ら歩み寄った。ちょっと物分かりが良すぎるなあというか、ここはたたかうのが維新の姿勢だったじゃないかと思います」と指摘しました。

憲法には、働く私たちを守るための大切な約束が書かれており、希望そのものです。しかし若い世代の現実はこの希望から遠くはなれています。

若い人たちは声を上げたくないのではなく、声を上げられない状況に置かれていることに着目する必要があります。相談相手がいなかったり、非正規雇用で声をあげれば雇用不安があるということだったり、無嫌なら転職すればいいという風潮は一人の人間として労働者として大切にされていないというさびしさを植え付けています。個々に分断されて権利が「使えない」状態、対抗する力の外に置かれていることが問題です。権利があったとしても使うことが難しく、声を出しにくくしています。

この乖離をどう埋めていくか。労働組合こそが若者にとって確かな希望です。労働組合は一人では言えないことを、仲間と一緒にいうことが出来ます。一人だと届かなかった要求が届くと知り、孤立が連帯に変わるときに権利が息を吹き返します。労働組合を、働く誰もが輪にはいれる場、安心して語り合える場として、職場・地域の数だけ再構築することかせ求められています。

2025 年憲法会議シンポジウム 感想

例年の「憲法講座」より多数の感想が寄せられました。その一部、それも全文でなく、カットしてあります。

◆Aさん 地方自治の重要性も改めて自分の中に落ちました。自分自身も学びを深めていくこと、そして、身近な周囲の人たちと対話していきます。

◆Bさん 参加前は自分が着いていけるか不安であったが、アッという間の3時間で、参加して良かったと感じました。

◆Cさん 国民・参政の得票アップに、ロスジェネ世代の危うさを感じていた。リベラル勢力のSNS戦略、労組、市民団体の政治的提案が課題。「台湾有事」に対抗する平和構想を、憲法原則をしっかり押し出したい。病院がなくなるという切実な問題が示された。国家予算のあるべき形を踏まえて、防衛費も考えたい。

◆Dさん 長年の自民党政治と国民の暮らしは疲弊しきって余裕がないのが現状であり、平和・憲法より、まず暮らし・経済と考える人が多い(特に若者)。なので、「ネトウヨ」力に騙されるのが実態だと感じました。そこで、どう軌道修正するかという点で、対象者年齢で働き方を変える必要があることや、自民党の改憲に向けた現時点の考え、SNS活用の必要性などを正しく認識して運動をすすめることが大事ということを感じました。

◆Eさん 対話による平和を実現する運動が大事なんだと改めて感じた。ネット社会の拡大により、情報があふれる世の中で、これから日本を支えていくことが、私たちに求められてきていると思いました。

日本を正しい方向に導いていくためにも、若者世代の学習・理解で深めていく必要があると感じました。

◆Dさん 今の情勢に危うさを感じ参加しました。とても参考になるものでリアルの必要性改めて感じました。

◆Eさん 4人のパネリストのお話を一度にうかがえる機会をいただき有難うございました。教職員(公務員)なので、もっと堂々と「憲法守ろう、憲法いかそう」と発信したいなあと(できずに)モヤモヤしている現状なので、勇気と自信をもらい、元気がでました。ただ、振り返ると選挙のたびに「傲慢なトラ」になっていたことにハッとさせられ反省中です。諸悪の根源は何か、見極める力をつけるため学びを止めない決意です。

憲法シンポジウムの録画を見て学びあおう

憲法会議のホームページに憲法シンポジウムの録画とパネラー4氏の報告の資料を掲載しています。是非、仲間とともに視聴し、学習しましょう。